

ハケ岳通信

■ 神長官守矢史料館

徳川家康と諏訪

天正10(1582)年3月に武田勝頼が織田信長に滅ばされ、同年6月に織田信長が滅びると、諏訪地方は様々な勢力の争奪の場になりました。当時の諏訪家の当主である諏訪頼忠は、小田原北条氏を後ろ盾にしていました。一方、甲斐国(山梨県)方面からは、徳川家康が諏訪を支配下に置こうと進出してきました。

酒井忠次が徳川方の先鋒として乙事(富士見町)に陣を張り、諏訪頼忠に服属を迫っていました。このような情勢の中、諏訪上社の神職の一人である神長官守矢信真は独自に酒井忠次と連絡をとっていたようです。7月19日の酒井忠次から信真へ送られた書状には、神長官が酒井に対して諏訪上社の神領の保全を要求し、酒井がそれを了承していることが記されています。

8月9日の北条氏邦書状には、信真が小田原北条氏当主である北条氏直に対して祈祷を行ったことが記されています。

しかし、8月17日の守矢信真願文では、当初、頼忠は徳川家康に臣従しようとして宝鈴を振って誓ったが、翌日に北条へ寝返ったことは神慮に背くことで、いずれ罰が

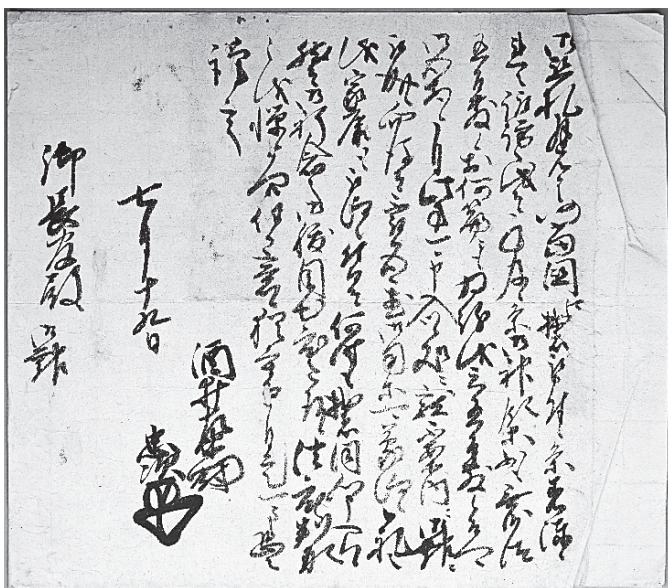
あたるだろう、神長官は当初から家康を支持し、家康ならば信長によって放火された社殿をきらびやかに復興させてくれるだろう、そのため、家康のために祈祷を行うとあります。

信真は当初から家康を支持し、頼忠が重臣の意見で北条方に寝返ったことに対して、かなり激しく頼忠を批判しています。

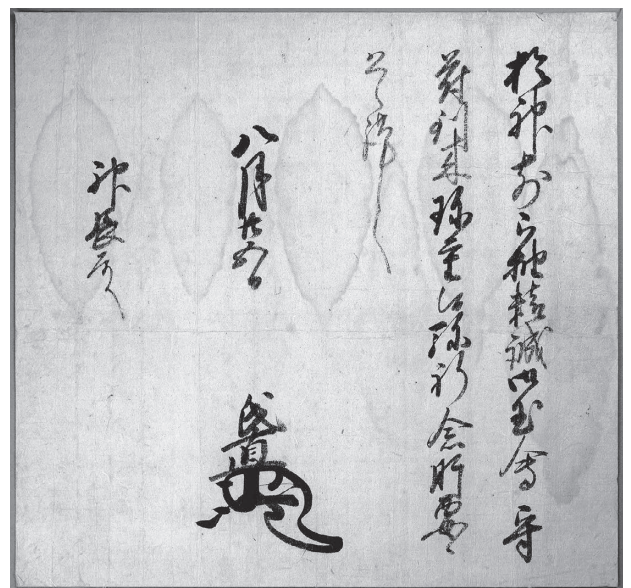
8月25日と26日には氏直、氏邦から御玉会(祈祷した内容などを記したもの)とお守りを送っているのが、信真は二重外交をしていたと思われます。

徳川勢は一時高島城を包囲するなどしましたが、北条勢が佐久方面から諏訪へ入り、諏訪頼忠を援護しました。その後、徳川勢と北条勢は若御子(山梨県北杜市須玉町)で対陣し、10月29日に和睦しました。これにより諏訪頼忠は徳川家康の傘下に入ることになったのです。

諏訪上社の神長官を務めていた守矢家には、この時の徳川勢の酒井忠次や、北条勢の北条氏直などの書状がのこされており、当時の緊迫した状況を伝えています。



天正10(1582)年7月19日 酒井忠次書状



天正10(1582)年8月25日 北条氏直書状

地域のなかの「文化財」

現在茅野市には103件の「指定文化財」が存在しています。しかし市内各地域には、このほかにも私たちの郷土の歴史を物語る様々な「お宝」が、今も人知れず残されています。それらを「未指定文化財」と位置づけ、次世代への継承に向けた取り組みが必要となってきています。

令和5年度、茅野市文化財課文化財係ではこれら未指定文化財を含めた様々な時代・性格の文化財の教育普及活動に取り組みました。また、これと並行して茅野市内にある指定文化財（国、県、市）を地図上に示した、「茅野市文化財マップ」の最新版を編集・発行しました。

・「永明中学校校庭遺跡速報展 弥生時代後期の墓制」の開催 (令和5年8月1日～9月3日、茅野市尖石縄文考古館)

令和4年10月～5年6月にかけて実施した、永明中学校校庭遺跡の発掘調査では、令和3年度の調査に引き続き、弥生時代後期の住居址と墓が発見されました。発見された墓は、地面に掘った穴に大きな壺や甕を埋めた土器棺墓や、長方形の穴を掘り、周囲を河原石で囲ったものなどで、これらが墓地を形成するようにまとまって検出されました。調査終了後の8月からは、これらの調査成果を、尖石縄文考古館でロビー展示として公開しました。会期中の8月15日にはギャラリートークを行い、「縄文」だけではなく、茅野市の考古資料の多様性を多くの来館者に知っていただく機会となりました。

・「永明寺山ふれあいウォーク」 (令和5年10月21日、永明寺山ふれあいの森を創る会・環境課)

永明寺山ふれあいの森を創る会が主催した「永明寺山ふれあいウォーク」では、約40名の参加者とともに永明寺山に造られた古墳をめぐり、古墳時代にこの地に勢力を張った豪族たちの眺めたであろう景色を、実際に古墳

が築造された場所から眺め、当時をしのびました。市史跡に指定されているものから、山林化してしまい地元の方にしか正確な場所がわからなくなってしまっていた古墳まで、隠れた古墳スポット・永明寺山の魅力を再発見できました。



・「塚原おたから探検隊」 (令和5年11月12日、塚原区公民館)

塚原公民館のイベントとして、区内に所在する石造物や史跡、建造物をめぐりました。縄文・弥生時代の集落跡や古墳から、近世の建造物や昭和の鉄道跡にいたるまで、私たちが普段何気なく目に見えている街並みの中にも、たくさんの遺産が隠れているということに気づき、未来へと残すべき「おたから」として地域住民に記憶されてゆくことで、それ自体また新たな、まちの魅力の一つとなりうるのではないのでしょうか。



CONTACT—情景をひらく

池上武男・山内悠・五味謙二・橋口優 関連イベント

特別講座「おでかけ美術館」

茅野市美術館では、2023年7月23日～9月3日に諏訪地域ゆかりの現代作家、池上武男（1964-、画家）、山内悠（1977-、写真家）、五味謙二（1978-、陶芸家）、橋口優（1984-、画家）の4人を取り上げた「CONTACT—情景をひらく 池上武男・山内悠・五味謙二・橋口優」を開催し、その関連イベントとして、8月25日に特別講座「おでかけ美術館」を実施しました。本関連イベントは、作家や美術館スタッフ、美術館サポーター「NPO法人サポートC 美遊com（ビューコム）」が学校へでかけ、鑑賞や造形活動を行なう事業です。

今回は、対象校の茅野市立北山小学校へ作家4人と講師の三澤一実氏（武蔵野美術大学教授）、美術館サポーター8人で伺い、全校児童約130人を対象に、2時限目に対話による作品鑑賞、3、4時限目に作品鑑賞を踏まえた表現活動と作品発表を行ないました。また、公開授業として見学者を募り、授業の前後に事前講義と振返りを設定し、9人が参加しました。

事前講義では、講師の三澤氏より社会の動きの中で、今回の授業がどんな意味を持つのかなどを話して頂きました。



はじめのあいさつ

授業では、2時限目の対話による作品鑑賞を行ない、全校児童を縦割りで8グループに分け、作家4人の作品を2点ずつ鑑賞しました。ファシリテーター（案内役）には美術館サポーターと北山小学校の先生たちが参加しました。



対話による作品鑑賞の様子

異なる学年のグループに対する作品鑑賞は言葉の選び方など難しさがありましたが、作品を様々な角度で鑑賞し、作家たちの自作の話に児童たちは引込まれていました。

表現活動では、全校児童を4グループに分け、4人の作家の表現に沿った活動を実施し、作品完成後は作品発表をしました。先生たちが授業進行を行ない、作家や美術館サポーターは児童たちのサポートをしました。

池上さんのグループでは、「このカタチ、色がへんしんすると…」と題し、画用紙に様々な形の水たまりを3つ作り、そこに墨をたらしこんでできた形から連想したものを描きました。描き始めた児童たちの集中力によって、教室には物音一つ立てるのものはばかられるような緊張感が漂っていました。



表現活動「このカタチ、色がへんしんすると…」

山内さんのグループでは、「わたしがみつけた『すごい!』」と題して、「すごいな!」と思ったもの・風景を校内や校庭などから探し、タブレットで撮影

しました。撮影終了後は自分が良いと思う写真を選び、お互いに発表しました。発表の際には撮った写真について、山内さんからコメントをもらいました。

「つんで、かさねて、ふしぎなカタチ」と題した五味さんのグループでは、粘土を使用し合体して面白い形を考えました。粘土の扱いに苦戦する姿もありましたが、五味さんの話を興味津々に聞く姿も見られました。

橋口さんの「わたしのお守り」では、怖いお化けをお守りにすることをテーマに児童たちそれぞれが想像する怖いお化けを粘土で試行錯誤を繰り返しながらつくりました。



表現活動「わたしのお守り」

振返りでは三澤氏より「芸術は体験しないと理解できない。いくら言葉ですごいよ、いいよといっても自分が実感しないと自身の中に落ちてこない。作家の作品を見る、自分でつくってみる、そしてまた友達の作品をみることはいい学びだったのではないかなと思う」と話があり、作家からは、「子どものころにもっとこういう授業を受けたかった」、見学者からは「子どもたちから心からの『へー』といった言葉が出ていた」という感想が聞かれました。

親子でオリジナル土偶缶バッジをつくってみよう

当館で開催しているイベントは、小学校5年生以上を対象とした縄文教室や、専門家を招いて行う縄文ゼミナールなど、小さい子どもとその家族が参加できるものはありません。そこで、令和5年度に開催したのが、未就学児を対象とした初めてのイベント、「親子でオリジナル土偶缶バッジをつくってみよう」です。

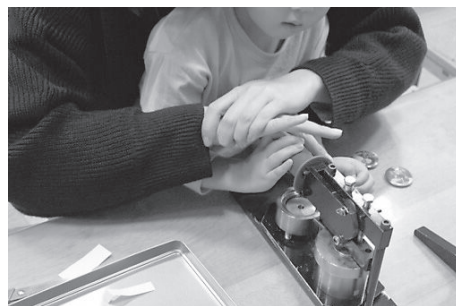
令和5（2023）年10月15日（日曜日）に実施し、市内にお住いの2組の親子にご参加いただきました。

講座では、実物の国宝「土偶」を鑑賞してから、実物とほとんど同じ重さの縄文のビーナスのレプリカを持ってもらい、参加者に実際の重さを体感していただきました。その後、国宝「土偶」を参加者のスマートフォンで自由に撮影してもらい、その写真を使ってオリジナル缶バッジを作製しました。

当日は、館内にイベントについての告知を掲示し、他の来館者へ周知を行うことで、大きなトラブルなく終えるこ

とができました。改善が必要な部分もありますが、作った缶バッジを参加者が洋服につける様子も見られ、今後も継続して開催ができればと考えています。

小さな子どもと一緒に博物館に来るのは気が引ける、と感じている方もいらっしゃると思いますが、小さな子どものいる家族にとって、博物館をより身近なものに感じてもらい、「行ってみたい!」と思ってもらえるよう、今後のイベント運営に尽力していきます。



缶バッジを作る親子

ハケ岳麓文芸館 企画展「芭蕉の系譜 —小平雪人関係資料新収蔵品展—」

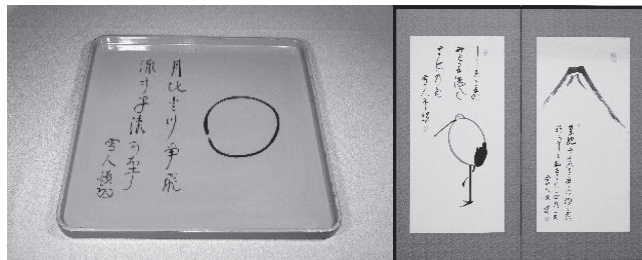
令和5年10月22日から令和6年2月25日に企画展「芭蕉の系譜 —小平雪人関係資料新収蔵品展—」を開催しました。



小平雪人（1872－1958）は諏訪郡湖東村上菅沢の医師の家に生まれ、慶應義塾時代、松尾芭蕉の弟子・宝井其角の直系である穂積永機（1823－1904）に師事し、一時養子となります。その後、長兄小平治の急逝を契機に帰郷し、以後、俳人育成に大きく寄与した、諏訪地方の俳壇の中心人物でした。

今回の企画展では、近年ハケ岳麓文芸館に寄贈された掛軸や短冊の他、これまで当館では収蔵していなかった漆器や陶器に俳句が書かれた資料を展示しました。

ハケ岳麓文芸館では、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、文芸資料の展示がなかなかできませんでした。今年度から、企画展・特別展会期外での文芸資料の常設展示が再開となります。当館所蔵の島木赤彦をはじめとする「アララギ」「ヒムロ」で活躍した歌人関係資料など、岳麓の短歌・俳句・俚謡を中心とする文芸活動をご覧いただく機会を増やしていければと思います。



ご寄贈いただいた新収蔵品 朱塗角盆、二曲屏風

茅野市の博物館・文化財だより **ハケ岳通信** No.42 発行年月日 令和6年（2024年）3月31日

編集・発行	茅野市神長官守矢史料館	〒391-0013	茅野市宮川 389 番地の 1	TEL(0266)73-7567
	文化財課文化財係	〒391-0213	茅野市豊平 4734-132	TEL(0266)76-2386
	茅野市美術館	〒391-0002	茅野市塚原 1-1-1	TEL(0266)82-8222
	茅野市尖石縄文考古館	〒391-0213	茅野市豊平 4734-132	TEL(0266)76-2270
	茅野市ハケ岳総合博物館	〒391-0213	茅野市豊平 6983 番地	TEL(0266)73-0300